

支部活動紹介

経営情報学会第17回学生研究論文発表会の開催報告

関西支部運営委員 横田明紀 (よこた あきのり)
立命館大学経営学部

1. 概要

毎年恒例となりました学生論文発表会を関西支部の運営により2022年2月26日(土)に立命館大学大阪いばらきキャンパスで開催いたしました。この発表会は経営情報関連の研究を行っている学部、修士・博士前期課程、ならびに博士・博士後期課程を卒業または修了予定の学生に卒業論文、修士論文、博士論文での研究成果を発表する機会を与え、質疑応答を通じてよりよい研究へと発展させるための一助とし、さらに、経営情報関連分野の研究・教育の進展に資することを目的に、2005年度より年度末に開催しております。ただし、本年度も新型コロナウイルスの感染拡大により大阪府に蔓延防止等重点措置が適用されていたことから、対面形式での開催を断念し、オンライン(Zoomミーティング)のみでの開催となりました。

2. 発表会について

今回は卒業論文5件、修士論文1件、博士論文1件の推薦を受け、計7件の報告が行われました。それぞれの発表者とタイトルは次のとおりです。

発表者の氏名とタイトル

卒業論文の部 (5件)

齋藤真美・松永ひかる (東京理科大学経営学部) テレワーク導入に伴う仕事満足度の決定要因分析 —職務特性モデルから考察する—
名越 翔 (大阪府立大学現代システム科学域) 顧客の小売店舗内回遊行動と購買行動の類似性に関する研究
岡田 恵 (大阪府立大学現代システム科学域) 「利用と満足」調査手法を用いたInstagramの利用動機分析
北原絃暉 (京都市大学知識工学部) 係り受け構造と階層化N-Gram出現頻度に基づく企業開示文書内重要フレーズの抽出手法の提案
小澤優真 (東京理科大学経営学部) 市場の正当性形成のメカニズムに関する実証研究 —日本の化学産業の市場間ネットワーク分析—

修士論文の部 (1件)

清水一晟 (東京都市大学大学院環境情報学研究科)
シミュレーション可能なビジネスモデル記述フレームワークのSDGs事例調査に基づく拡張とシミュレーション試行

博士論文の部 (1件)

山田壽一 (大阪府立大学大学院人間社会システム科学研究科)
重要特許の判別方法と指標

1人あたりの報告時間を卒業論文は発表10分・質疑5分、修士論文は発表15分・質疑10分、博士論文は発表20分・質疑10分と定め、研究内容についてのプレゼンテーションと活発な質疑応答が行われました(写真1,2)。また、各発表者からは事前にそれぞれの論文での研究内容をまとめた予稿を

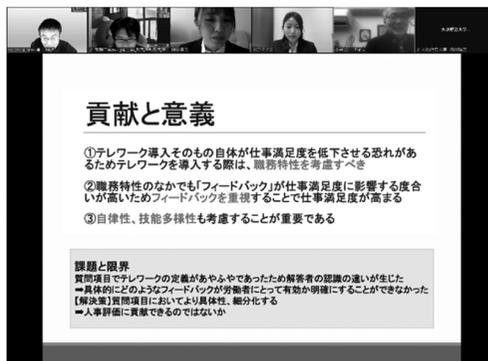


写真1 発表の様子

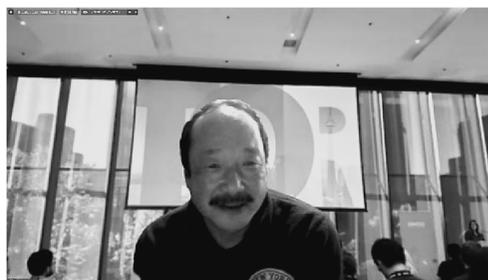


写真2 質疑の様子

4ページで作成していただき、それらをまとめた発表論文要旨集の発行も行いました。

3. 表彰式について

すべての発表が終了後、関西支部および九州・沖縄支部の運営委員のメンバーで構成する審査委員会によって、各発表者の予稿、発表および質疑の内容を審査し、最優秀賞および優秀賞を決定しました。各賞の受賞者は次のとおりです。

■最優秀賞

岡田 恵さん（大阪府立大学現代システム科学域）



写真3 最優秀賞受賞者の岡田 恵さん

■優秀賞

清水一晟さん（東京都市大学大学院環境情報学研究科）



写真4 優秀賞受賞者の清水一晟さん

また、他の発表をいただいたすべての学生に対し論文賞が授与されました。

4. おわりに

最後に布施匡章関西支部長よりすべての発表者および参加者への謝意が表された後、本日の発表全体に関して次のように講評が述べられました。

- ・学生研究論文発表会も、年々、レベルが上がってきており、特に分析手法についてはとても高度な分析を学部生でありながら行われている発表が多くあった。
- ・今回、最優秀賞となった岡田さんは自分の手でデータを集め、それを適切に分析されていた点が、優秀賞の清水さんは多くの議論を呼び、研究の発展性を有していた点が評価された。
- ・経営情報学会は多様な領域や分野の教員および企業の方が集まっている学際的な研究組織であり、発表いただいた皆さんも、是非、今後も学会に参加をいただきたい。

加えて、今回、審査委員に加わっていただいた九州・沖縄支部を代表して四本雅人先生より次のように感想が述べられました。

- ・定量的な研究でしっかりとデータを使って分析されている研究が多かった。
- ・今後、就職をされる方や、引き続き研究を行われる方がおられると思うが、研究の心を忘れずに培った分析の力あるいは視点を使って活躍していただきたい。

冒頭の「1. 概要」でも述べたとおり、本年度もオンライン開催となり大変広範囲の地域から多数の発表および参加をいただきました。Zoomのレポートによる参加者数では合計で33名（重複IDを除く）となっております。約3時間と長時間の発表会となりましたが、最後まで参加いただきました皆さま、ありがとうございました（写真5）。

本発表会は経営情報学会の研究活動の一環として実施しており、次年度も引き続き学生研究論文発表会を開催予定です。次年度も全国より多数の発表および参加のお申し込みがあることを期待しております。



写真5 参加者のスクリーンショット